

車特集 高山 海斗先生 自転車で日本一周

高山先生の愛車は自転車だ。持ち運びに便利な折りたたみ式自転車と、2・3泊程度の旅に適するランドナー、高速走行にもってこいのロードバイクの3台を所有している。カラーはグリーン。改造はせず、洗車し、美しく乗る正統派だ。高山先生の自転車旅を紹介しよう。

↓宗谷岬の先端、北緯45度31分22秒の“日本最北端の地”を標す記念碑とともに。真っ黒に日焼けした高山先生。



2016年5月12日に出発した自転車旅は、日本一周。2016年5月12日に時速20km程度で5~6時間走り続け、12月10日に達成。総距離は13,884km。

大学生の時、友人に誘われて二泊三日で能登半島を一周。開始10分でタイヤがパンクするというハプニングもあつたが、それ以来、自転車の魅力に取りつかれた。中学時代から抱いていた日本各地を巡りたいといふ憧れも、高山先生の原動力となつた。

↓日本一周達成記念フォト。「シロ」と「チャ」。旅の途中で仲間入りした右端のコは、「名前はまだない」そう。



自動車、バイク、自転車に電車も加え、乗り物好きは旅が好き。旅は見えたことのない景色に触れ、感じたことのない空気を吸える。食べたこぎを蓄える。八工生よ、人生の中で旅する時間を創り出し、フットワーク軽く、出かけてみよう。(木)

高山先生が太鼓判を押すご当地食べ物は、長崎県のトルコライス、佐世保市の佐世保バーガー、宮崎県のチキン南蛮、青森県大間のマグロ、島根県の出雲そば、北海道函館市のラツキーピエロというハンバーガー店など。どれもたまらなく美味しかったそう。

1日間に渡る冒険だ。寝袋とテントを携え、旅の7割程度は、テントで寝泊まりをした。週に1~2回はネットカフェで宿泊し、スマート充電をしたという。旅のお供は、スコットの「シロ」と「チャ」。一緒に47都道府県を回った。北海道は見どころも多く、40日かけて走り抜いた。かかった金額は準備を含める100万円程度。時間と費用の工面は不可欠だ。

マ

琵琶湖よし笛ロードは近江八幡市堀上町をスタート地点とし、終点を走る。高校生の「車」はチャリだ。自転車で行けるここまで行くぞ。身近にあるサイクリングロードの魅力をお伝えしよう。



↑木村オレンジ率いる(最後尾ですが)新聞部一行。全員3年生。1・2年の仲間が欲しい。頼む。入部してくれ。

↓能登川水車で一息。



↓能登川水車で一息。

よし笛ロードのススメ 白鳥川沿いの桜並木

木の葉が太陽の日差しを遮り涼しい風を運んでくれて実際に気持ちがいい。サイクリングってやっぱりいい。一方、コース半ばには木の枝がトンネルのように伸びており、木の枝がトネルのよひ修理工事をしてもらいたい。一方、コースの途中には木の枝がトネルもあり、ぜづぶ修理工事をしてもらいたい。一方、コースの途中には木の枝がトネルもあり、ぜづぶ修理工事をしてもらいたい。

木々が葉桜に変わり始める4月下旬頃から5月中旬には、期間限定で100匹を超える鯉のぼりが川沿いに設置される。川面を優雅に泳ぐこの「鯉のぼりの川渡り」は、桜並木に負けない迫力だ。是非ご覧あれ。(純)

びわこよし笛ロード ガイドマップ



木の葉が太陽の日差しを遮り涼しい風を運んでくれて実際に気持ちがいい。サイクリングってやっぱりいい。一方、コース半ばには木の枝がトネルのように伸びており、木の枝がトネルのよひ修理工事をしてもらいたい。一方、コースの途中には木の枝がトネルもあり、ぜづぶ修理工事をしてもらいたい。

一方、コースの途中には木の枝がトネルもあり、ぜづぶ修理工事をしてもらいたい。

一方、コースの途中には木の枝がトネルもあり、ぜづぶ修理工事をしてもらいたい。